カジズタ古墳

広域営農団地農道整備事業安能２期地区予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22年10月

島根県松江県土整備事務所

安来市教育委員会

カジズタ古墳全景

例　言

１．本書は安能２期地区広域営農団地農道整備事業に伴い、島根県松江県土整備事務所の委託を受けて、安来市教育委員会が平成22年度に実施したカジズタ古墳の発掘調査報告書である。

２．調査組織は次の通りである。

［調査主体］安来市教育委員会

［事務局］

安来市教育委員会教育長　　伊達山興嗣

安来市教育委員会教育次長　　平井　禎

安来市教育委員会文化課課長　　原田　誠

安来市教育委員会文化課主幹　　水口晶郎

安来市教育委員会文化課主任　　坂根　丈

［調査員］

舟木　聡（安来市教育委員会文化課主幹）

泉あかね（同　臨時職員）

［調査指導］

池淵俊一（島根県教育庁文化財課）

岩橋康子（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター）

［調査参加者］

石原静枝、実重勝利、原田禮子、細井一広、細田章郎、山尾昭一、山口スミエ

３．本書の第２図には、国土交通省国土地理院発行25,000分の1のものを使用した。

４．本書に使用した実測図は、舟木、泉が作成し、泉が浄書を行った。

５．本書に使用した遺構写真は舟木が撮影した。

６．本書の編集・執筆は舟木及び泉が行った。

７．本書に掲載した遺構の実測図及び写真は安来市教育委員会で保管している。

本 文 目 次

巻頭図版

例言

第Ⅰ章　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第Ⅱ章　位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第Ⅲ章　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

第Ⅳ章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

写真図版

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第２図　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第３図　カジズタ古墳調査前地形測量図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第４図　Ⅰ区土層図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第５図　Ⅱ区土層図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

第６図　Ⅰ区検出遺構実測図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

第７図　Ⅰ区検出遺構実測図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

第８図　調査後地形測量図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

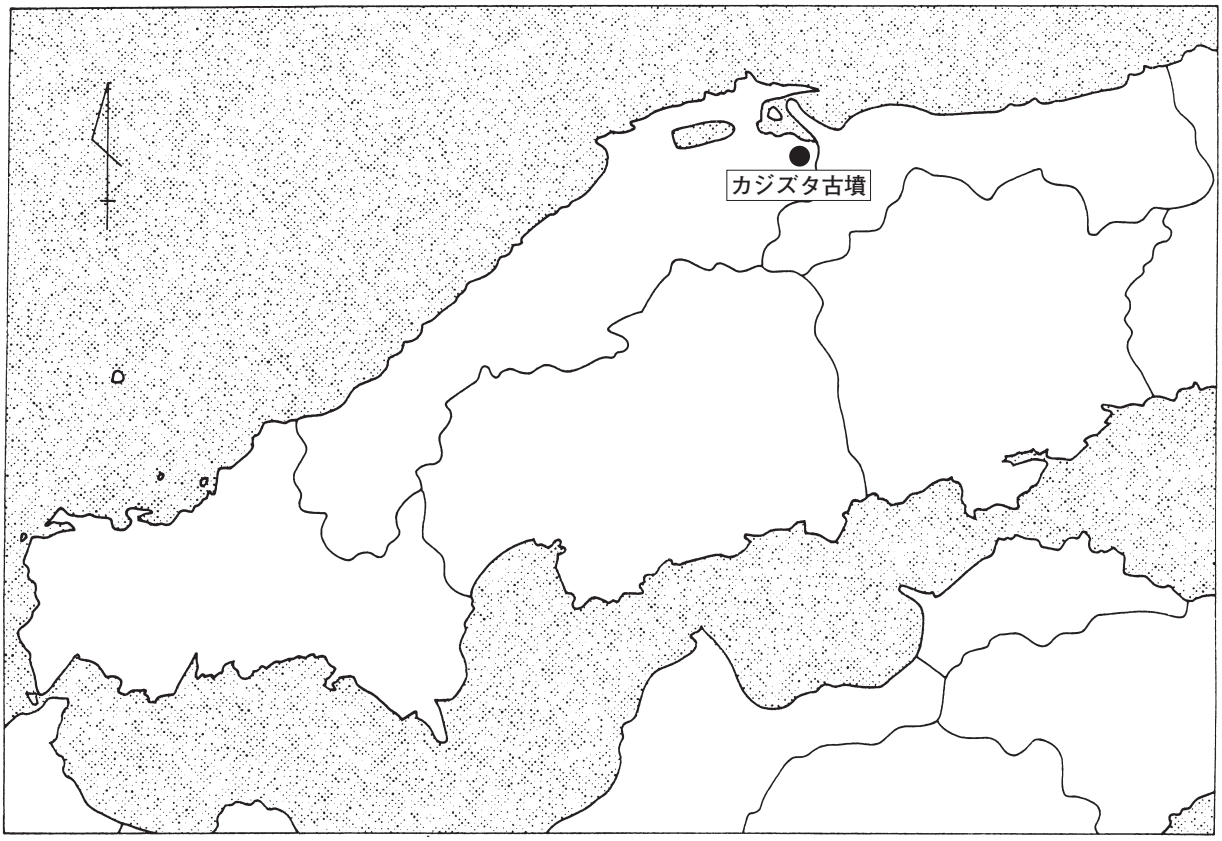
第Ⅰ章　調査に至る経緯

安来市の農産物は、水稲を中心として、野菜・畜産・茶などの複合経営地帯である。

しかしながら、地域を包括するＪＡやすぎの農業施設が散在しているため、各施設間の基幹流通網の整備が重要な課題となっていた。とりわけ、南部の安来市広瀬町と安来市伯太町については、東西を結ぶ基幹連絡道が無かったため、農産物等の集出荷や原料の輸送に多大な時間と労力を費やしている状況であった。このため、輸送の合理化と農業経営の近代化を図り、地域農業の振興と活性化を図る目的で、基幹農道の整備が計画された。

本整備事業に伴う埋蔵文化財については、島根県松江農林振興センター（現・島根県松江県土整備事務所）からの依頼を受け、平成15年２月から同年７月まで高倉遺跡、同年８月から平成19年３月まで永昌寺の谷遺跡の発掘調査を実施し、安来市の歴史を考える上で貴重な遺構・遺物を検出している。

今回調査を行ったカジズタ古墳は、島根県松江県土整備事務所からの依頼を受けて、平成20年度に分布調査を行った際、工事予定地内において古墳状の地形を確認したため、同年に試掘調査を実施したところ、古墳状地形の頂部において、埋葬施設とみられる遺構を検出したため、平成22年５月21日より発掘調査に着手し、同年８月13日に現地調査を終了した。



第１図　遺跡の位置

第Ⅱ章　位置と環境

安来市は島根県東端、鳥取県との県境に位置する。この地域は古代～近世にかけて、考古学上重要な遺跡が数多く存在している。

今回調査を行った、カジズタ古墳の所在する安来市広瀬町周辺には、現在のところ古代の遺跡はあまり多く知られていないが、主に古墳や横穴墓など、いくつかの遺跡が知られている。

縄文時代の遺跡としては、平成15年度に発掘調査が行われた土居成遺跡（2）において、遺跡東南の谷部（Ⅱ区）で落とし穴２基と、縄文後期（四元式及び中津式並行）の土器類、石斧、石鏃などが出土している。また宮尾遺跡（27）でも縄文土器片が採集されている。

弥生時代の遺跡は、現在のところ確認されていないが、富田川河床遺跡（16）において流砂層内から弥生後期の土器が出土しているため、飯梨川の周辺部に遺跡が存在すると思われる。

古墳時代になると遺跡数が急激に増加する。ほぼすべてが古墳及び横穴墓であり、大型の前方後円墳２基の他、多数の古墳が存在する佐々彦神社裏古墳群（17）や、保存状態の大変良好な金銅装環頭太刀を出土したかわらけ谷横穴墓群など、安来を代表する重要な遺跡もみられる。

奈良・平安時代になると、遺跡の数がまた減少し、近隣では鬼瓦が採集されている石原遺跡が知られる程度である。

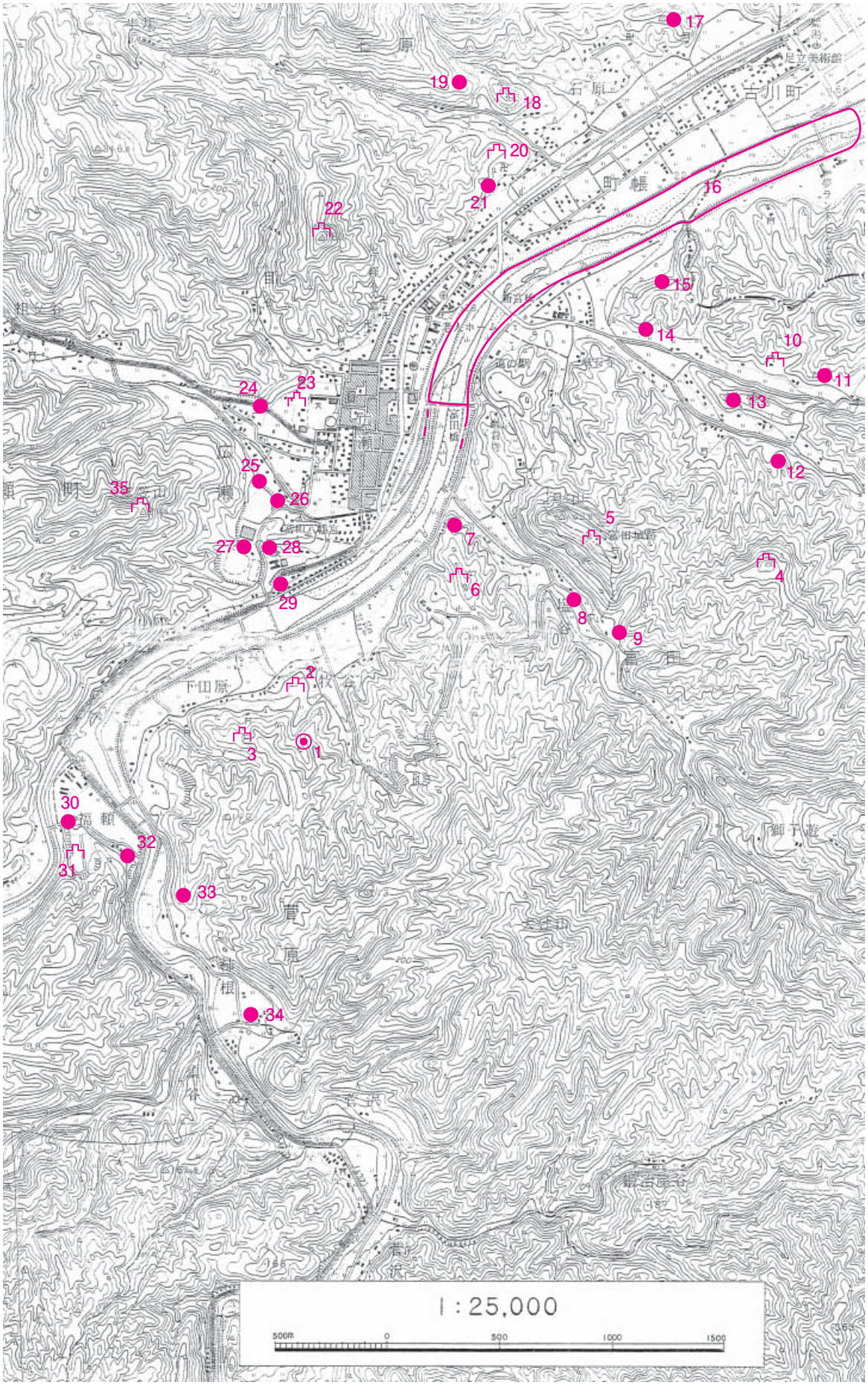
中世に入ると、当地域が出雲国支配の中心地として繁栄した事実などから、城館や都市の遺跡が多数みられるようになる。

富田城跡（5）は、標高約190ｍの月山山頂部を中心とした大規模な山城跡で、昭和９年（1934）に国の史跡に指定された。月山とその周囲の丘陵上に大小無数の曲輪が存在し、主要な曲輪の周りには石垣が築かれている。昭和50年代から、史跡整備に伴って主要な曲輪の発掘調査が行われ、多くの遺構・遺物が発掘されている。この城は中国地方屈指の戦国大名であった尼子氏の居城として有名で、永禄９年（1566）の尼子氏滅亡以後は、毛利氏、吉川氏と城主が変わり、慶長５年（1600）関ヶ原の戦いの戦功により堀尾氏が入城したが、堀尾氏が松江城を築いてそこへ本拠を移したことにより廃城となった。

この他に富田城の周辺には、尼子氏一族で、尼子軍の中核を担っていた新宮党の居館跡と伝わる新宮党館跡（10）、天文11年（1542）に出雲に侵攻した大内義隆が本陣とし、また永禄９年（1566）の毛利元就による富田城攻略戦の際には、毛利軍が陣を敷いた京羅木山城砦跡群や勝山城跡などの陣城群。空堀を伴う城館跡が確認された土居成遺跡など、数多くの城館遺跡が存在している。

また、集落遺跡としては、江戸時代の寛文６年（1666）の洪水により壊滅した富田城城下町の遺跡である富田川河床遺跡が著名である。

近世・近代の遺跡としては、先述した富田城跡や富田川河床遺跡の他、寛文６年（1666）に成立した広瀬藩の藩邸跡（23）の他、塩谷焼窯跡（7）などが知られている。



第２図　周辺の遺跡

表１　周辺の遺跡一覧

	名称	種別	概要	備考
1	カジズタ古墳	古墓？	焼土壙３	本報告書掲載
2	土居成遺跡	城館跡	建物跡、堀切、陶磁器	
3	寺山城跡	城館跡	曲輪、竪堀	蓮華峰寺山砦
4	日向丸城跡	城館跡	曲輪、堀切	H11一部発掘調査
5	富田城跡	城館跡	曲輪、堀切、石垣、土塁、建物跡	国史跡
6	明星寺・塩谷城館跡群	城館跡	曲輪、土塁、堀切	
7	塩谷焼窯跡	窯跡	窯跡１基、物原	明治17年頃廃窯
8	塩谷遺跡	城館跡	石列、建物跡、道路跡	
9	伝・尼子晴久墓	古墓	宝篋印塔	尼子経久墓との説あり
10	新宮党館跡	城館跡	建物跡、陶磁器	県史跡
11	富田三太良遺跡	城館跡	備前壺、瀬戸天目、白磁	
12	伝・堀尾忠氏墓	古墓	石垣、建物跡、瓦	
13	新宮谷遺跡	城館跡	建物跡、陶磁器	
14	宗松寺跡	寺院跡	石垣	伝・毛利元秋墓含む
15	洞光寺跡	寺院跡	墳墓基壇	
16	富田川河床遺跡	集落跡	建物跡、井戸、道路跡、陶磁器	富田城城下町跡
17	佐々彦神社裏古墳群	古墳･横穴	前方後円墳、横穴墓	
18	石原城跡	城館跡	曲輪	
19	広瀬梨柿園遺跡	古墓？	備前壺１、土師質土器30	
20	亀井ヶ成・誓願寺裏城砦跡群	城館跡	曲輪、土塁、堀切	
21	仏心焼窯跡	窯跡		昭和6年創業
22	大成山城砦跡群	城館跡	曲輪、土塁	
23	広瀬藩邸跡	城館跡	堀、石垣、建物跡	
24	祖父谷丁石塔群	古墓	五輪塔、宝篋印塔	
25	伽羅久利神社遺跡	散布地		
26	上広瀬遺跡	集落跡	竪穴住居	
27	宮尾Ⅰ・Ⅱ遺跡	散布地	縄文土器	
28	上広瀬焼窯跡	窯跡		明治27年頃廃窯
29	八幡山横穴墓群	横穴		大部分消滅
30	福頼古墳群	古墳	方墳２基	
31	福頼遺跡	城館跡	曲輪、堀切、土塁、	
32	福頼釦跡	製鉄遺跡	樋	
33	才の神焼窯跡			明治21年～大正４年
34	越峠焼窯跡			明治14年創業、消滅
35	三笠山城跡		曲輪	

第Ⅲ章　調査の概要

試掘調査の結果、古墳の存在を想定した丘陵先端部（Ⅰ区）を中心に、南側丘陵にもさらに古墳状の高まり（Ⅱ区）が存在するため、その部分についても古墳の可能性を考えて調査を行なった。

調査の結果、当初予想していた古墳ではなかったものの、Ⅰ区の頂部において方形の焼土壙２基、丘陵東側斜面において不整円形の焼土壙１基を検出し、遺跡が存在することを確認した。

今回の調査における検出遺構の概要は以下の通りである。

Ⅰ．Ⅰ区の調査

（1）ＳＫ０１

尾根北側ピーク付近で検出した、長辺0.92m、短辺0.75m、深さ0.4mを測る長方形の土壙である。土壙の壁面のほぼ全周と底面の多くは被熱して赤みを帯びて硬質化している。壁面はほぼ垂直に掘られており、底面も平坦に加工されている。土壙内には炭化物を含む黄褐色砂質土を主体とする層が堆積しており、底面近くには炭化物の含有量がかなり多くなる。遺構内から遺物は出土しなかった。

（2）ＳＫ０２

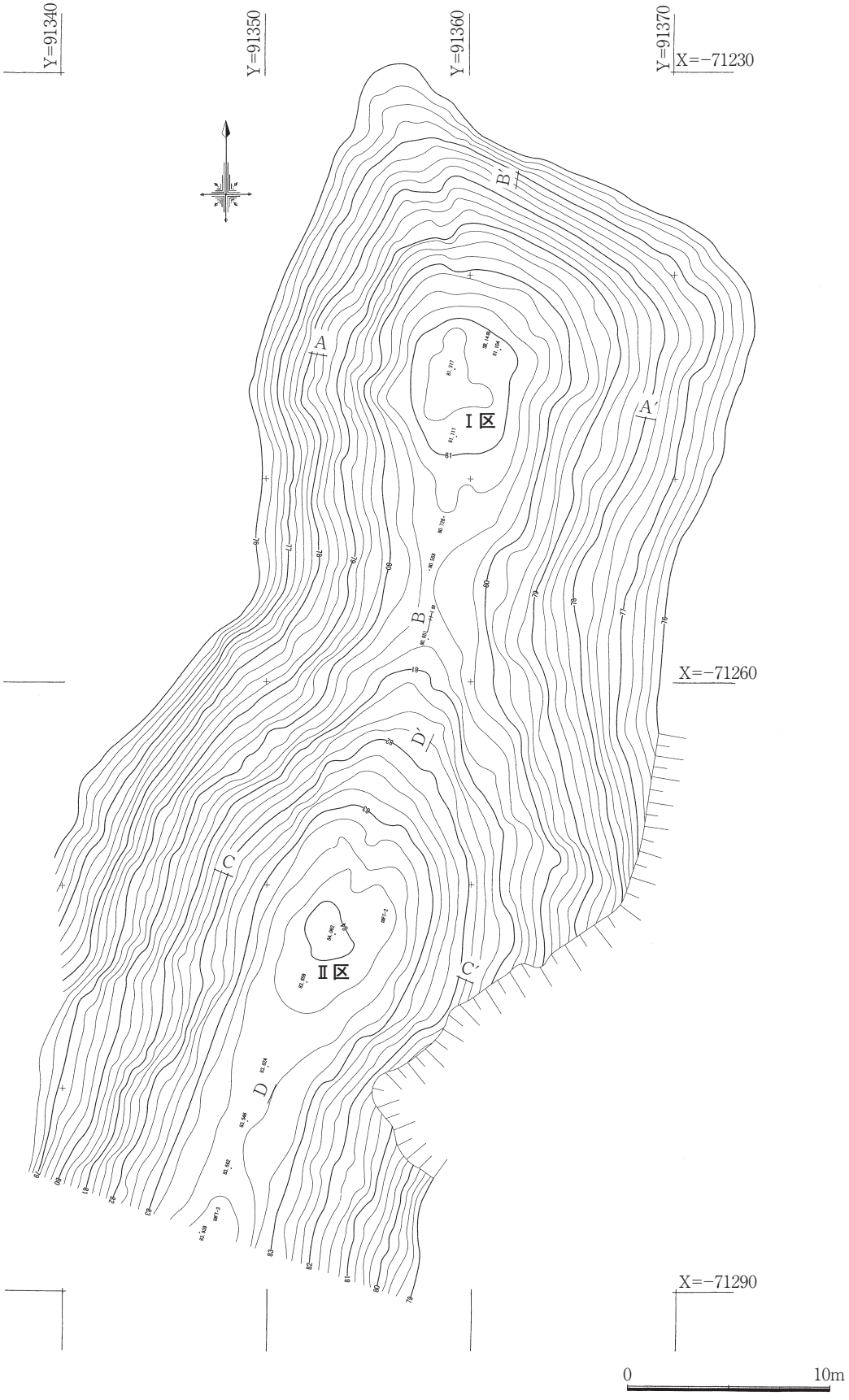
ＳＫ０１の南西約 1.5 mの位置で検出した、長辺1.25m、短辺0.9m、深さ0.3mを測る長方形の土壙である。ＳＫ０１と同様、壁面及び底面は被熱して赤みを帯びて硬質化している。壁面はほぼ垂直に掘られている。土壙内の堆積土も、同じく炭化物混じりの黄褐色砂質土を主体としており、底面付近には炭化物が多量に混じる層がある。遺構内から遺物は出土しなかった。

（3）ＳＫ０３

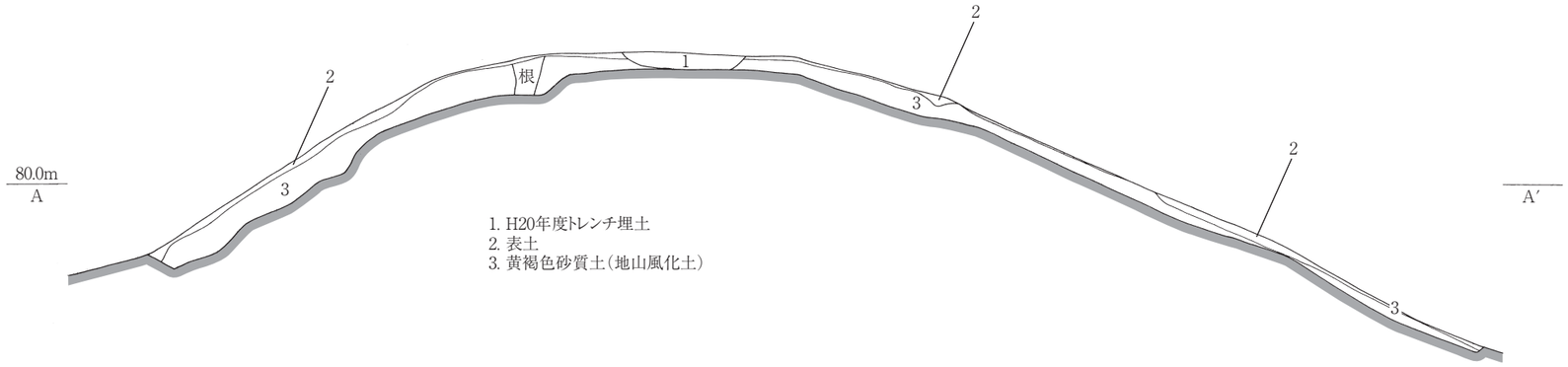
ＳＫ０１から東へ約2.4m下った斜面上で検出した浅い土壙である。土壙の東半部は土砂の流失により残存していなかったが、本来は概ね円形を呈するものであったと思われる。残存部分の直径は約1.1m、深さ約0.4㎝を測り、土壙の断面形状はレンズ状を呈する。土壙底面は部分的に被熱による赤化がみられる。急な斜面上にあるためか、土壙内には表土以外堆積土がほとんどなく、わずかに炭化物を含んだ黄褐色砂質土層があるだけであった。土壙内から遺物は出土しなかった。

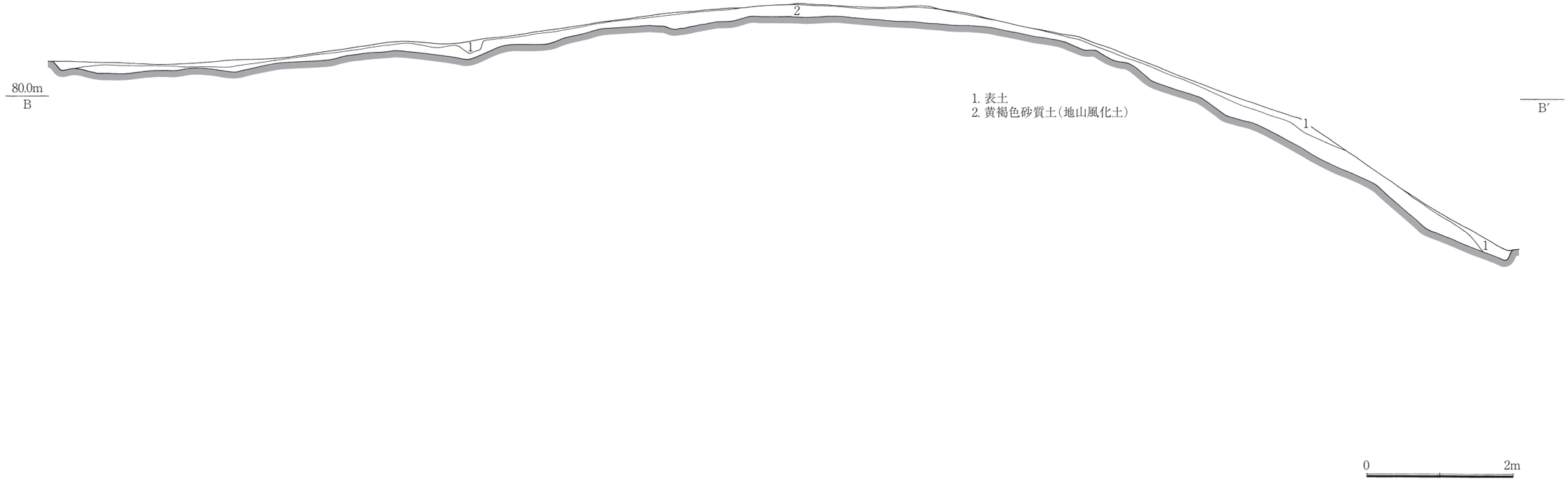
Ⅱ．Ⅱ区の調査

調査区南側は北側のピークよりもさらに2.7m程度高い位置にあり、地形もやや塚状を呈しているため、古墳である可能性を考えて調査を行なった。その結果、当地点も表土の下は地山風化層とみられる黄褐色砂質土が若干堆積しているのみで、地山上には樹木の根株痕がいくつかあったのみで、主体部などの遺構は検出されなかった。

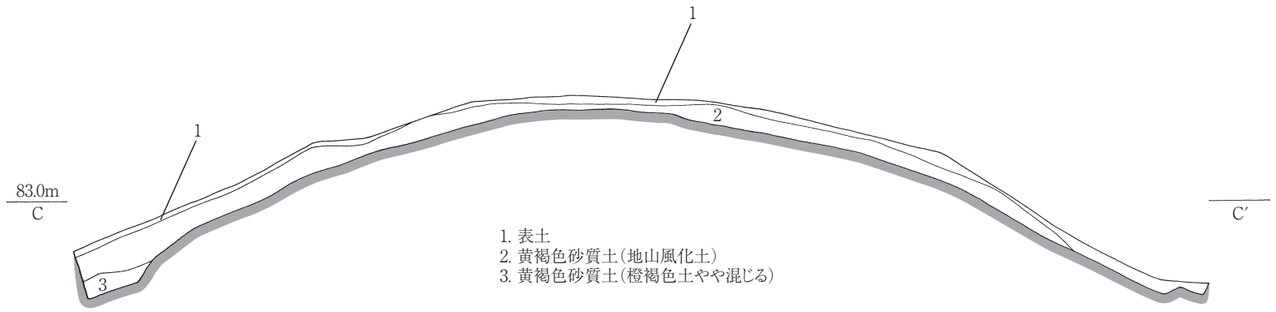


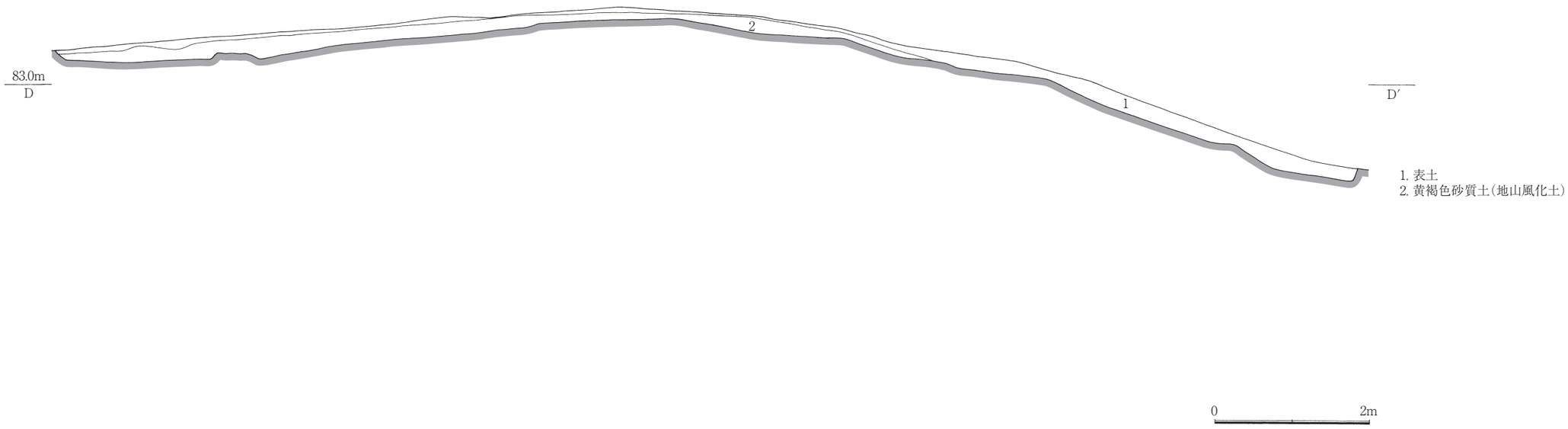
第３図　カジズタ古墳調査前地形測量図（S=1/300）





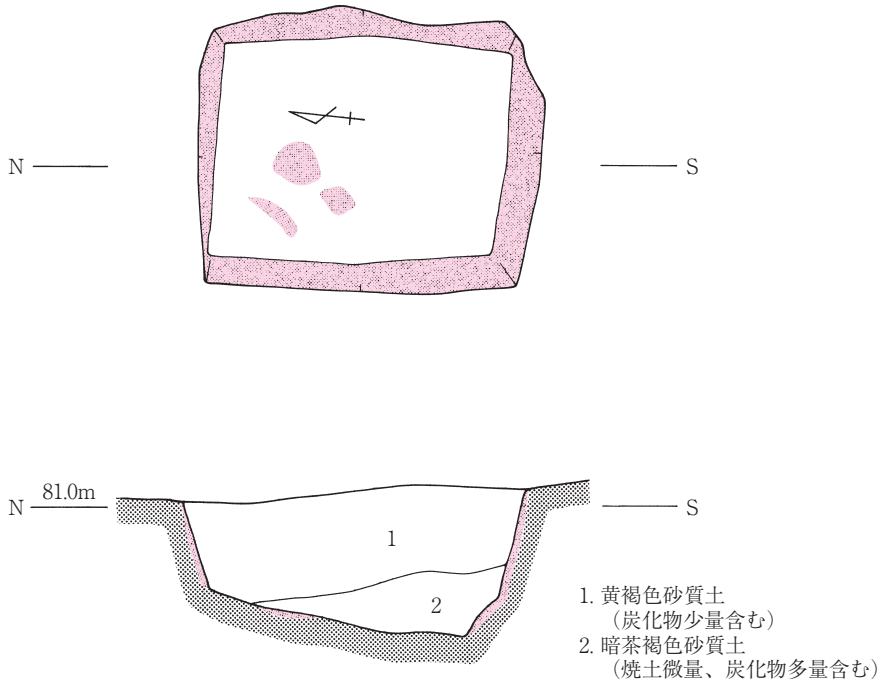
第４図　Ⅰ区土層図（S=1/60）



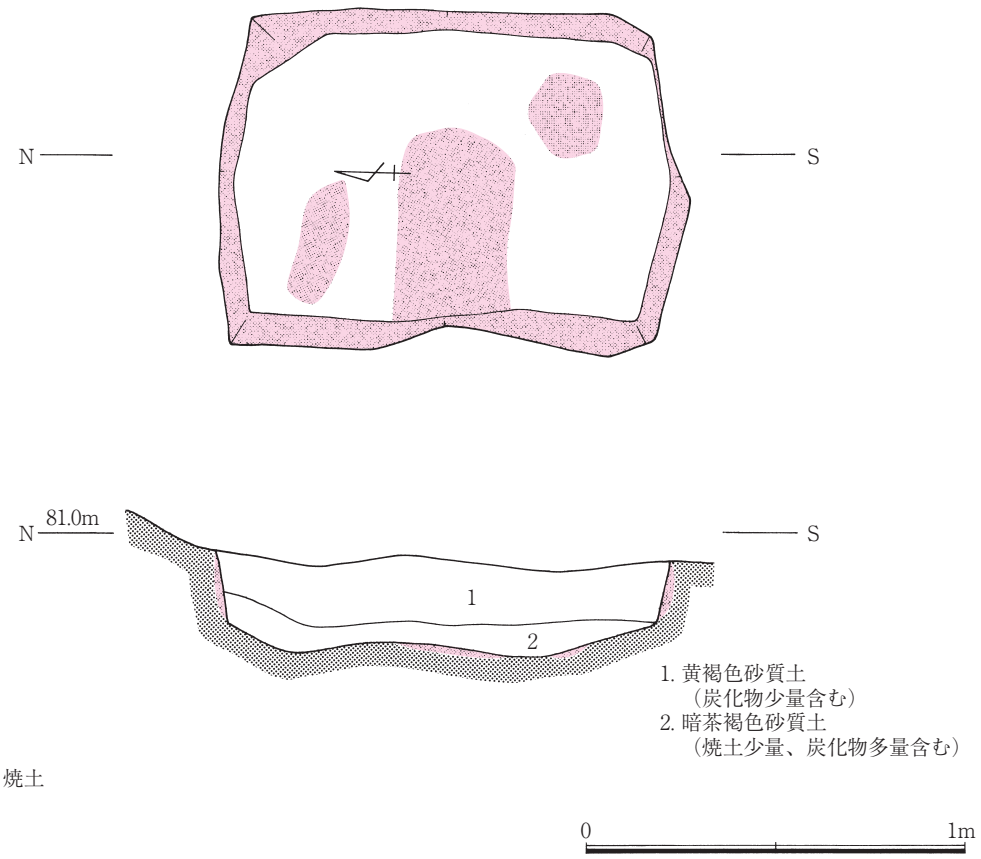


第５図　Ⅱ区土層図（S=1/60）

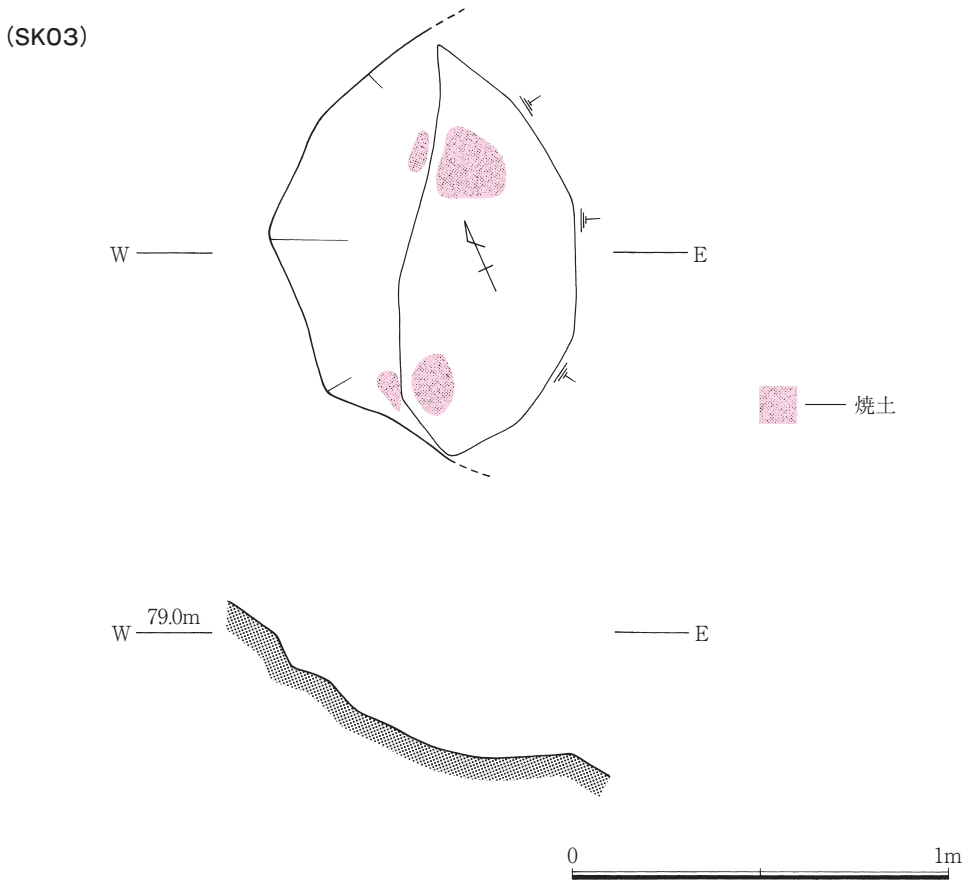
(SK01)



(SK02)

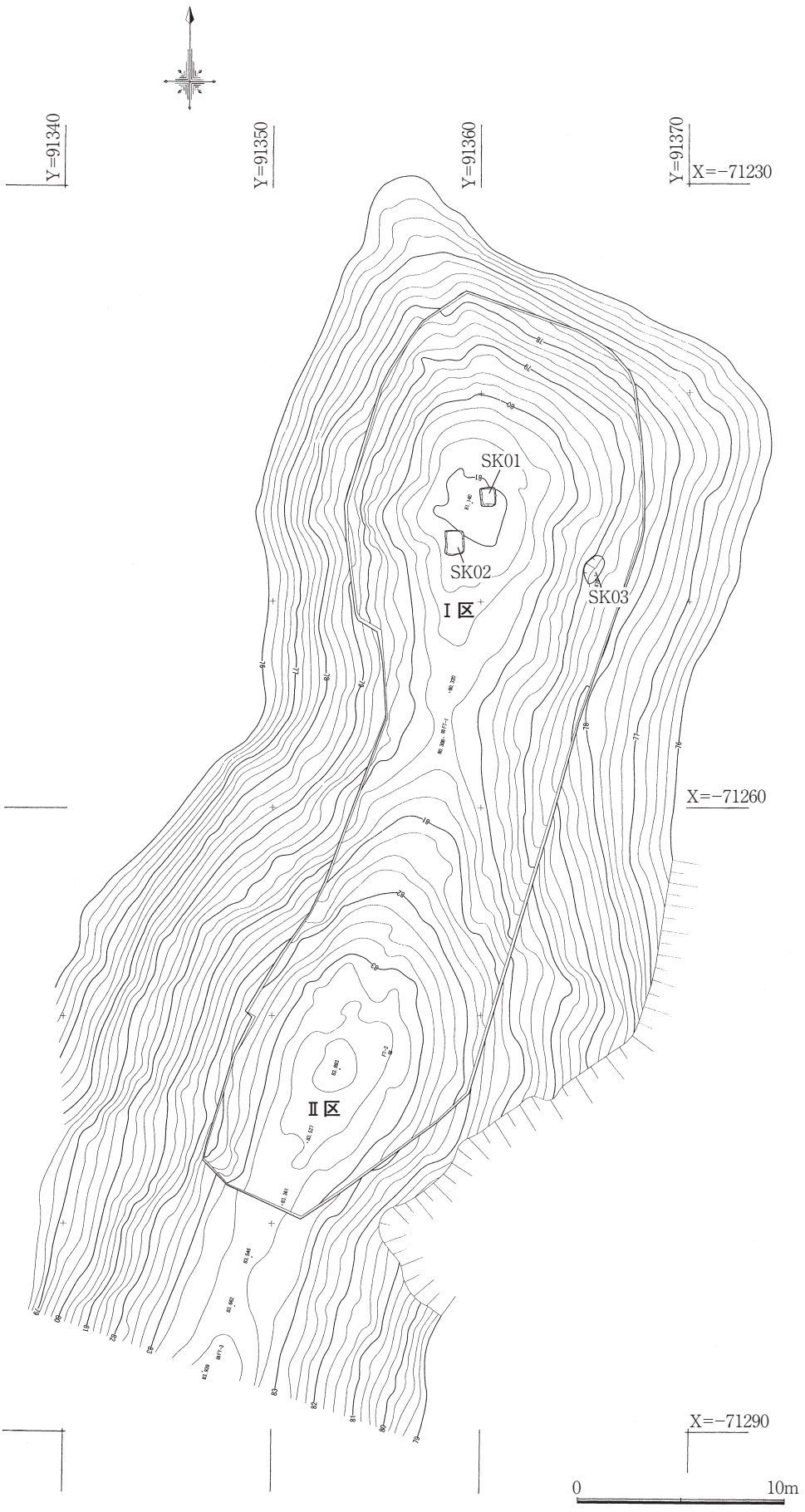


第６図　Ⅰ区検出遺構実測図（１）（S=1/20）



第７図　Ｉ区検出遺構実測図（２）（S=1/20）

発掘調査風景



第８図　調査後地形測量図（S=1/300）

第Ⅳ章　まとめ

カジズタ古墳は、丘陵頂上に位置する古墳の墳丘を思わせる塚状の地形であり、さらに試掘調査の結果、方形を呈する土壙プランが塚状地形の頂上ほぼ中央で検出したことから、古墳の存在を想定して発掘調査を行なったが、調査の結果、埋葬施設が検出されず、墳丘を造成した痕跡なども見られなかったため、古墳ではないと判断した。

しかし当初古墳の埋葬施設と推定していた土壙ＳＫ０１に加えて、丘陵頂部及び斜面から焼土壙２基（ＳＫ０２、ＳＫ０３）を検出したため、遺跡が存在することを確認した。

ＳＫ０１・０２・０３の３基の焼土壙は、遺物及び骨片などが出土せず、また上部には石塔や基壇なども検出されなかったために断定はできないものの、中世城館跡である土居成遺跡を背後から見下ろす丘陵上に位置していることや、土壙の壁面や底部が被熱して赤く変色し、内部に多量の炭化物が堆積していることなど、山陰地域で発見されている中世火葬墓の特徴と共通する点も多いことから、本遺跡の土壙群も中世火葬墓である可能性も考慮する必要があろう。

しかし、島根県教委が平成６年度に山陰道の建設に伴って発掘調査を行った安来市門生町陽徳遺跡からは、カジズタ古墳で検出されたものよりやや大型ではあるものの、ほぼ同様な特徴を有する土壙ＳＫ０６が見つかっており、この遺構の時期は、熱残留磁気測定の結果、A.D.660±30（７世紀代）の測定値が出ていることから、本遺跡で検出したＳＫ０１及びＳＫ０２も、古代の遺構である可能性も捨てきれない。

いずれにせよ、今後の同様な類例の増加を待って判断する必要があろう。

【参考文献】

・岩橋康子「島根県東部における中世墓の様相―火葬墓を中心として―」『古代文化研究　№14』島根県古代文化センター 2006
・建設省松江国道工事事務所・島根県教育委員会『陽徳遺跡・平ラⅠ遺跡』1995

写　真　図　版

カジズタ古墳遠景（北西から）

Ⅰ区調査前（南から）

Ⅰ区南北ベルト北半部土層（東から）

Ⅰ区南北ベルト南半部土層（東から）

Ⅰ区東西ベルト西半部土層（南から）

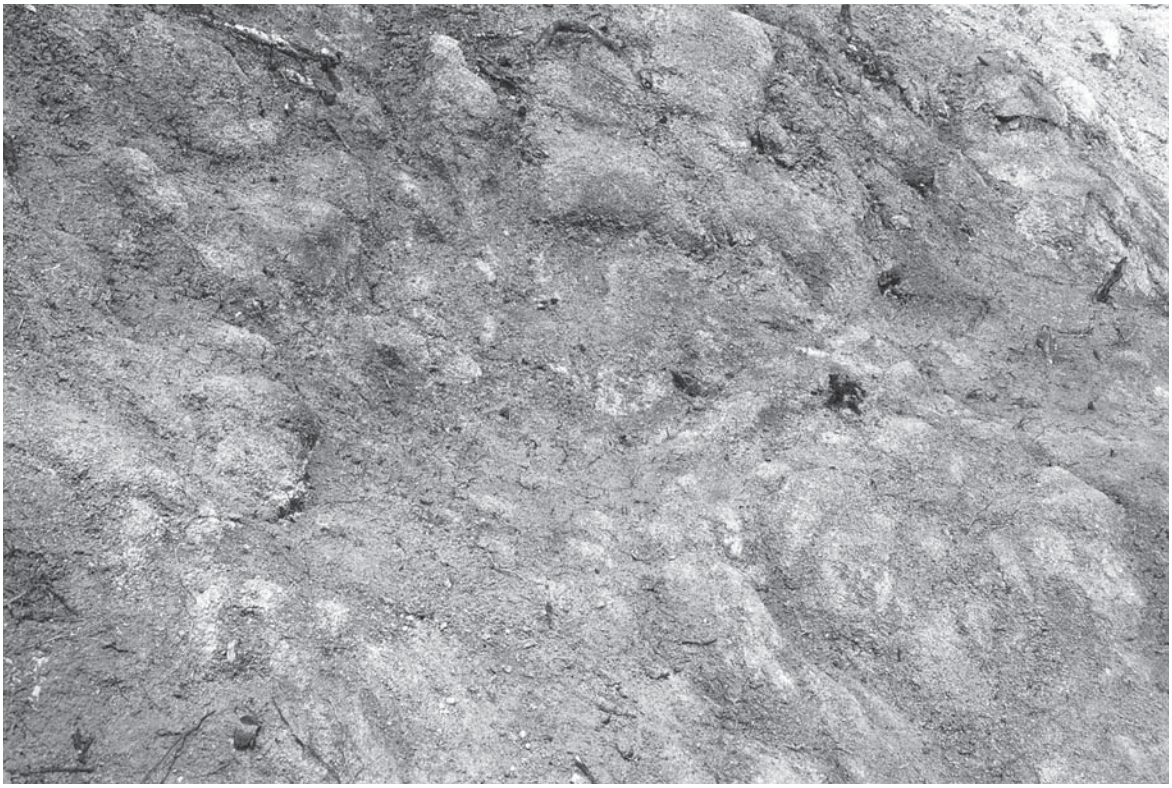
Ⅰ区東西ベルト東半部土層（北から）

SK01 土層（東から）

SK01 完掘（東から）

SK02 土層（西から）

SK02 完掘（西から）

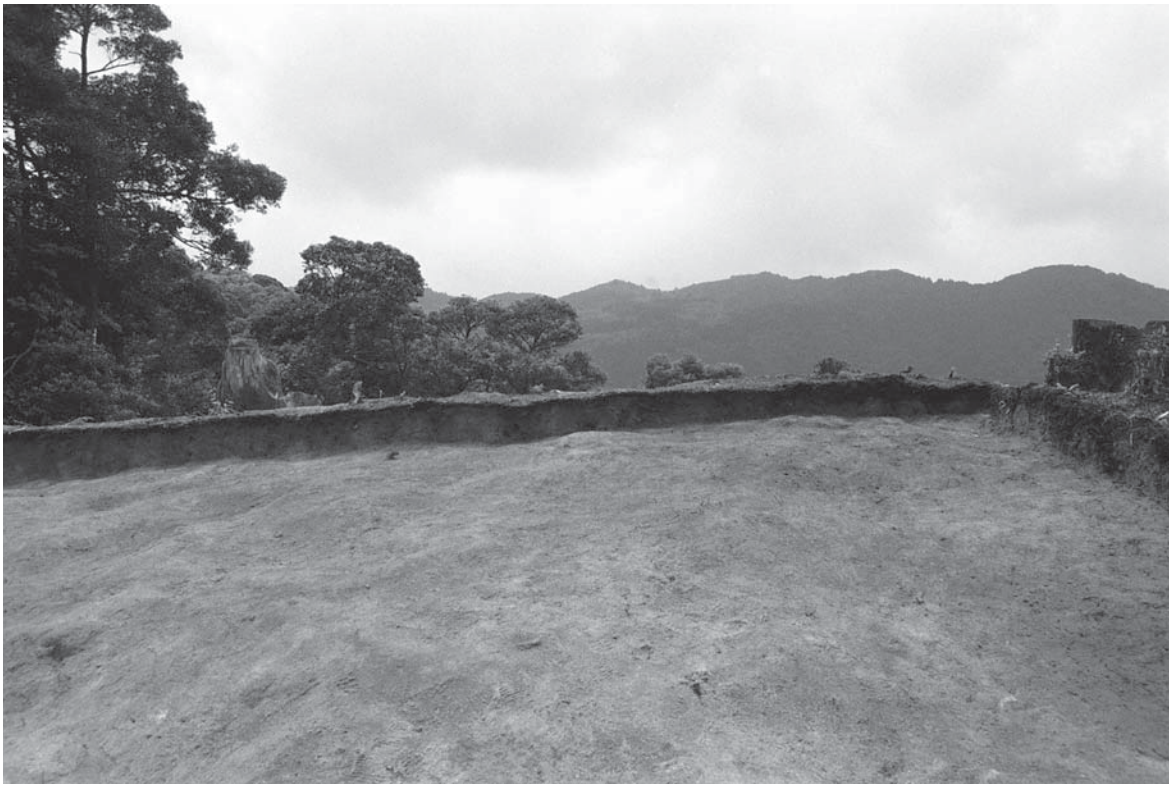


SK03 完掘（南から）

Ⅰ区完掘状況（南から）

Ⅱ区調査前（南から）

Ⅱ区南北ベルト北半部土層（西から）



Ⅱ区南北ベルト南北部土層（東から）

Ⅱ区東西ベルト東半部土層（南から）

Ⅱ区東西ベルト西半部土層（北から）

Ⅱ区完掘状況（南から）

調査指導

安来市文化財保護委員の会視察

報告書抄録

ふりがな	かじずたこふんはっくつちょうさほうこくしょ
書　名	カジズタ古墳発掘調査報告書
シリーズ名・番号	
編集者名	舟 木　聡
編集機関	安来市教育委員会
所在地	〒692-0207　島根県安来市伯太町東母里580番地　　TEL　0854-23-3316
発行機関	島根県松江県土整備事務所・安来市教育委員会
発行年月日	平成22（2010）年10月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界標準座標値	調査面積	調査年月日
		市町村	遺跡			
かじずたこふん カジズタ古墳	やすぎしひろせちょう 安来市広瀬町 とだ 富田	32206	C125	X=−71242、Y=91360	480㎡	2010年5月～ 2010年8月

調査原因	安能２期地区広域営農団地農道整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
カジズタ古墳	古墓？	中世？	焼土壙３	なし	

カジズタ古墳発掘調査報告書

広域営農団地農道整備事業安能２期地区予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22(2010)年10月発行

発行 島根県松江県土整備事務所
安来市教育委員会

印刷 (有)太　陽　平　版